

受付番号第3号、質問議員10番、遠藤和秀。

件名、「人口減少の歯止め対策を」。

山北町の総人口は、昭和30年（1955年）の1万6,689人をピークに減少が続いている。「人口問題研究所」の推計によると、今後、人口減少が進み、令和27年（2045年）には4,813人になるものと言われている。

国が昨年実施した「第21回国勢調査」で、山北町の人口減少率は県内で最も高く、一方、開成町は増加率が県内で最大でトップの伸び率だった。開成町では「計画的な基盤整備」、「子育て支援」、「ブランディング」の3事業が増加の要因と見ている。

また、当町の人口は、昨年1万人を割っている状況となっている。

このような中で、人口減少対策は全国的な課題であり、この課題の解決に向けては単発的ではなく、当町の特徴を生かし、数々の施策を絡ませ、連携を持たせて事業を推進していくことが人口減少の歯止め対策につながっていくと思ひ質問する。

1、山北町の魅力は自然環境のよさと言われている。豊かな自然環境を合活用した住宅として考えると、ヒルズタウン丸山は当町にとっての好事例と言えるのではないか。このことを基に今後の具体的な人口減少対策としての取組の考えはどうか。

2、「買物などの日常生活」に不便な、三保地区・清水地区に現在デマンドタクシーの試行運転が実施されている。初めて乗った利用者に伺ったところ、非常に便利でよかったと聞いた。試行の利用者数だけで方向性を出さず、今後高齢者により免許証の返納者が増えると思われ、町はその実情を把握する必要があると考えるがいかがか。

3、岸地区の大型商業施設に買物に行ったときに買物が終わっても、町内循環バスの本数が少なく、バス停で待つ時間が長く不便と聞いた。増便する考えはないか。

4、東山北1000計画は人口減少対策として重要な対策である。東山北1000計画のこれまでの成果と今後の具体的なスケジュールは。

5、水上住宅の建設計画は具体化しているが、周辺計画のビジョンが近隣の地権者に示されていない。早めに説明・協力要請を行うべきではないか。

以上。

議 長 答弁願います。

町 長 町長。

町 長 それでは、遠藤和秀議員から「人口減少の歯止め対策を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北町の魅力は自然環境のよさと言われている。豊かな自然環境を生かした住宅として考えると、ヒルズタウン丸山は当町にとっての好事例と言えるのではないか。このことを基に今後の具体的な人口減少対策としての取組の考えはどうか」についてであります。町では、人口減少対策の取組として、平成21年度から定住総合対策事業大綱を策定し、住まいづくりに関する支援のほか、子育て支援や交通利便性の向上、移住・定住につながる関係人口の創出など、全庁を挙げて、人口減少問題の課題に取り組んでいるところであります。

ヒルズタウン丸山につきましては、平成30年8月21日から販売を開始し、令和3年3月に、全ての区画の契約が成立し、完売となりました。これは、コロナ禍をきっかけに、働き方改革によるリモートワークの導入など、生活環境の多様化により、地方への移住に関心が高まったことも、契約成立の一因であると考えております。また、ヒルズタウン丸山を購入された方の中には、周辺の環境や眺望が気に入って購入を決めたという話も伺っておりますので、移住先を検討するに当たり、自然環境というのは大きな要素であると感じております。

今後の取組といたしましては、ヒルズタウン丸山のような宅地分譲を進めるため、山北町土地開発公社による宅地開発なども一つの整備手法として視野に入れながら、調整を図っていきたいと考えております。

なお、最近、町内では、民間事業者による宅地分譲開発が複数行われており、建売住宅も販売されると、すぐに契約が成立する状況となっております。このため東山北1000まちづくり基本計画の重点地区に位置づけられ、現在、整備を進めている水上地区や、同じく重点地区の尾先地区については、周辺の山々や河川に隣接するなど、豊かな自然に囲まれている立地を生かし、自然と調和した魅力ある住宅供給が行えるよう、道路等のインフラ整備を行っ

ていくことで、民間事業者による宅地分譲開発が行いやすい環境の創出を図っていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「買物などの日常生活」に不便な、三保地区・清水地区に現在デマンドタクシーの試行運転が実施されている。初めて乗った利用者に伺ったところ、非常に便利でよかったと聞いた。試行の利用者数だけで方向性を出さず、今後高齢化により免許証の返納者が増えると思われ、町はその実情を把握する必要があると考えるがいかがが」についてであります。が、現在、清水地区、三保地区で実施しているデマンドタクシーの試行運転については、多くの町民の方々に御利用いただいております、需要の高さを改めて感じるところであります。

今後、利用状況などを分析・検証いたしますが、今回の試行運行で得られた実績はあくまでも現在の結果であり、今後、利用者の需要は変化していくことも考えられますので、今回の試行運行の結果だけで判断せず、中長期的な視点で、潜在的な需要を見極め、本町にどのような運転形態が最も適しているのか、検討していきたいと考えております。

また、運転免許の自主返納件数については、警察庁が公表している運転免許統計からも、ここ数年増加していることが確認されております。運転免許を返納された方の増加は、今後の生活交通施策の必要性を見極める重要な要素の一つと考えますので、今後も実態の把握に努めていきたいと思っております。

次に、3点目の御質問の「岸地区の大型商業施設に買物に行ったときに買物が終わっても、町内循環バスの本数が少なくバス停で待つ時間が長く不便と聞いた。増便する考えはないか」についてであります。が、町内循環バスは、町が所有する2台の車両を利用し、富士急湘南バス株式会社に運行委託をしております。現在の運行ダイヤでは、2台の車両が運転手の交替などを行いながら常に稼働している状況であり、増便する場合、新たな車両や運転手の確保のために多額の費用が必要となるため、現状での実施は難しいかと考えております。しかしながら、利用者の待ち時間を少しでも減らす方法として、運行ダイヤの見直しを行うことも考えられますので、現状の利用状況を分析し、富士急湘南バスと調整しながら、課題を少しでも解消できるよう検討してまいります。

次に、4点目の御質問の「東山北1000計画は人口減少対策として重要な対策である。東山北1000計画のこれまでの成果と今後の具体的なスケジュールは。」についてであります。東山北1000まちづくり基本計画につきましては、東山北に1,000人の人口増加を目指すことをまちづくりのキャッチフレーズとして定め、平成23年3月に策定されてから10年余りが経過しております。これまでの成果といたしましては、原耕地地区の商業ゾーンに、スーパーマーケットやホームセンター、ドラッグストアなどの商業施設を誘致し、東山北駅前では、町道の拡幅やロータリーの新設、休憩施設の設置など、駅前広場の整備が行われました。

それらの取組を行った結果、生活利便性の向上が図られ、向原地区や岸地区においては、民間事業者による宅地分譲開発が複数行われるような状況となっており、一定の成果が表れていると思っております。

住宅ゾーンに位置づけをされている水上地区につきましては、アクセス道路と水上住宅の整備を進めており、並行して、向原保育園の移転計画を含めた水上地区全体の土地利用計画の作成に向けて取り組んでいるところであります。

スケジュールにつきましては、令和3年度中に「向原保育園の定員をどうするのか」、「規模の面積がどのくらい必要なのか」、「認定こども園として運営するのか」などについて検討を行い、令和4年度には、令和2年度に全地権者を対象に実施した土地利用に関するアンケート調査の結果を基に、移転場所や道路計画を含めた水上地区全体の土地利用計画を策定し、地権者の了承を得ながら、新東名工事作業員宿舎解体時期の令和6年度を目途に、事業に着手できるよう進めていきたいと考えております。

また、尾先地区につきましては、アクセス道路となる町道茱萸ノ木松原先線の整備計画を県と協議しており、併せて前耕地地区からの接続道路の計画についても検討を行っているところで、土地の活用方法やスケジュールについては、尾先地区土地利用研究会の役員会等で、引き続き検討を進めていきたいと考えております。

次に、5点目の御質問の「水上住宅の建設計画は具体化しているが、周辺計画のビジョンが近隣の地権者に示されていない。早めに説明・協力要請を

行うべきでは」についてであります。水上地区の整備計画につきましては、地権者で構成される水上地区土地利用研究会を平成22年11月に発足し、役員会を中心に周辺環境と調和した土地の有効活用について、地権者主導により検討を重ね、その内容については、総会の開催や役員会だよりを発行するなど、地権者の皆様にお知らせしてきたところであります。

現在整備を進めている水上住宅及び、保育園の移転計画を含む周辺の整備計画についても、役員会だよりにより地権者へお知らせしているところであります。今後、周辺の整備計画が明らかになったときには、引き続き、研究会の役員とも連携を密にしながら、早急に整備計画を周知し、協力をお願いしていきたいと考えております。

議 長 10番、遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 今の答弁いただきまして、今、水上住宅、尾先住宅も自然があるとの回答がありましたが、そこはまた違った山北町ならではの自然豊かな見晴らしのよいところというところ、やっぱり丸山になってしまうんですけど、先日ちょっと見に行ったんですけど、今まだ工事現場に貸してあるところもあると思うんです。あれが立ち退いた後に、あの周辺を整備すれば、まだまだ住宅地区ができると思うので、その辺の計画が、町長あるのかどうか、ちょっとお伺いしたいんですが。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、コロナ禍というようなことの中で、当初、ヒルズタウン丸山、一部売れ残るのではないかとというふうに思っておりましたが、おかげさまで全戸完売いたしました。そういうような流れの中で、今、清水建設さんにお貸ししているところが返ってきたときに、当初は工場とか、あるいは、また店舗とかいろいろな考えもあったんですけど、住宅として要望がかなり見込みがあるんでしたら、ぜひともそういった計画を実現してみたいというふうに思っていますので、当然その敷地について、今の敷地よりもできれば少しでも増やしたいというふうに考えておりますので、そういったことも含めながら可能かどうか検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤

私が思っているような回答をいただきまして、よかったです。

それと、先日、岸・向原地区の「町長と語ろうまちづくり」の中で聞いた話なんですけど、岸側の小学校の入り口の町道を渡って通学していると。最近、車両が多く、大幅に増えていると聞いた。今後、丸山開発をしていく上に、同時進行でその交通対策も一緒にやったほうがいいんじゃないかと思うんですけど、その辺のところ、町長、どのようなお考えでしょうか。

議 長

町長。

町

長

おっしゃるように、停車場線については、県のほうで、今現在、三菱ガスのところを拡幅していただいておりますけど、当然あれだけでは、今言われたような対策には、どうしても交通量が増えてきていることも事実でございますんで、そういった意味では、座談会で出ましたように、そういったことについて、県のほうの土木のほうと調整しながら、要望をしていかなければいけないというふうに思っておりますので、町独自ではできませんけど、県のほうと調整しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議

長

遠藤議員、今の質問ですけれども、遠藤議員の御発言については、川村小学校の前のというところですかね。

10 番 遠

藤

町道、ヒルズタウンのほうを上がっていくところの町道です。

議

長

はい。その答弁ですと、今のところだと場所が少し違うのかなと思っただんですが。改めまして、町長、御答弁あればお願いいたします。

10 番 遠

藤

小学校の入り口のところです。

議

長

教育長。

教

育

長

小学校の入り口のところの横断歩道がありますけども、その部分のところじゃないかというふうに思います。

ヒルズタウンが造成されて、それから、あと清水建設の事務所等がある関係で、かなり頻繁に車が登校、登下校のときに通るということで、集計等もされたということで伺っておりますけども、確かに、あそこの部分が以前よりは通行量が増えてきているというような状況の中で、9月、11月かな、交通安全の点検を行いました、町全体でですね。小学校から要望された箇所を委員の方々と回って、そのところで改善すべきところをいろいろ検討して、今取り組んでいるというところで。確かに、あそこのところの看板がありま

して、そのところが見えにくいということで、もうこれは警察のほうから指摘がございましたので、早速企業のほうに話をしましたところ、まあ確かにそうだろうということで、すぐに撤去していただいたということでもあります。

その点だけで解決するものじゃなくて、今後さらにあそこの部分が増えてくるかというふうに思います。じゃあ、どういった形で子どもたちの安全を確保するかということで、考えていかなきゃいけないというふうに考えてございます。

今、朝の登校の時間は、ボランティアの方と、それから、あと校長があそこに立って、子どもたちの横断歩道の誘導をしているというような状況でございますけども、果たして、これからそれだけで済む問題ではございませんので、今後交通量が増えたときにどうすべきかということは、しっかりと検討していかなきゃいけないというふうに考えてございます。

ただ、町としましても、あそこのところはこれから検討課題の重要部分だというふうに考えてございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひ早急に、事故してからじゃ遅いですから、早急にその辺は対処よろしくをお願いします。

次に、今年度のお試し住宅利用状況と利用者の何割ぐらいが定住につながったどうか。それもちょっと数値的にお願いしたいんですが。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 今年度の利用状況なんですけども、既に今9組、24名の方が利用をされています。この後も3月末まで予約は既にいっぱいとなっております、キャンセル等がなければ、最終的には14組、50名の方が利用する予定となっております。

定住につながった実績なんですけども、今年度、移住としてつながった実績はございません。しかしですけれども、1組、2名の方が既に売家のほうを購入されまして、現在、2地域居住という形で、週末だけ今こちらのほうに来られている方がおられます。また、別の方なんですけども、非常に山北が気に入ったということで、今不動産屋を通じまして、町内の住宅、空き家のほうを今調べて、既にこちらのほうに移住したいというふうなことで探さ

れている方もいるということで聞いております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 そうしますと、空き家バンク登録等が少ないから来れないという理由はないんですか。来たいんだけど、空き家バンクの登録数が今ほとんどない。今、山北どのぐらいありますか、登録の。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 空き家バンクの登録ですけれども、現在、12月1日現在で、町のホームページのほうに、今公表しておるんですけれども、その物件が、売家が4件、貸家が4件、アパートになるんですけれども共同住宅が6件、それと売地で6件、貸地で1件という形になっております。

実際、今遠藤議員のほうから登録件数が少ないのではないかというようなお話もございました。今年度は、12件が既に今年度登録をされていまして、そのうち5件が成約という形にもうなっております。

ですので、希望者に沿う物件が一番、今、マッチングが合えば、すぐそういう契約等になるような形になっております。実際、件数的には少ないんですけれども、常に新しい空き家等があれば、町のほうからもお声がけして、登録をしていただいているような状況になっております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 そうしましたらば、町的にはいろいろ努力されているということは分かりました。

次に、山北町らしい自然に囲まれた山本邸をお試し住宅にして利用したらどうかと思いましたが、何かもう既にもう貸しているということで、お聞きしました。もし、これ、また戻ってきましてら貸家住宅として使うという町長の考え、ありますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今、山北町で、実際、空き家はかなりあるんですけど、皆さん、なかなか貸していただけないというようなところも非常にあります。また、住んでみたい、定住、移住してみたいという方が結構コロナ禍の後で多くなっているということも事実です。

そういった中を踏まえて、やはり今までのやり方だけでは駄目だろうと。



もう一步踏み込んで、町のほうでそういったような空き家に対して、もう一步、何というんですか、買い取るとかあるいは修繕するとか、そういったようなことも含めて踏み込んでいかなければ難しいだろうというふうに思っておりますので、そういったことも含めながら、今、まだ全然、構想段階ではありますけども、やはり三保地区とかそういったところ、やはりちょっと、何というんですか、泊まりたいという方がかなり、例えばSUPに来られた方、あるいは山登りとか様々な方がいらっしゃいますので、そういった方のために、できれば、ゲストハウスみたいなものがないかというようなことを考えております。

いきなり定住、移住につながるのではないんですけども、常に山北町にリピーターとして来ていただけるような、そんなような方を増やすために、ぜひそういったようなこともさらに進めていきたいというふうに思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 先ほど、ちょっと質問した山本邸の話をお聞きしたいんですけど。今、山本邸。

議 長 町長。

町 長 山本邸については、やはり、何というんですか、旅館業法とかそういったこともあって、今現在、三保の財産区とか、あるいはSUPの管理をしていただける方にお貸ししているというようなことでございますけども、その辺は、皆さんの要望を聞きながら、可能なような限り山本邸についても利用していきたいというふうに思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひよろしくお願いします。私も本当に一番山北らしい、湖も見えるしいところだと思いますので、大事にしていきたいと思いますので。

次、2番目に行きます。三保地区・清水地区で1日平均どのぐらいデマンドタクシーの利用があったのか伺いたいんですが。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 デマンドタクシーの実績の関係でございますけれども、10月、11月の実績につきましては、清水地区につきましては、利用申込件数19件、利用者数

が36人、三保地区につきましては、利用申込件数が48件、利用者数は80人というような状況でございます。これを1日平均にいたしますと、10月、11月の運行日数につきましては40日でございますので、利用者数を運行日数で割り替えますと、清水地区につきましては0.9人、三保地区につきましては2人という形になりまして、三保地区のほうが利用状況が多いという実績になってございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 今、平均0.9と2人と今お聞きしましたけど、これ、予想はどのぐらいの予想でしたか、これをつくったときの。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 利用の具体的な1日当たりの平均人数ですとかそういう予想は、当初からしておりませんでした。そういうニーズをつかむための試行運行でございますので、そういう形で当初の予想はしておりませんでしたけれども、かなりのニーズが、特に三保地区、三保地区ではあるのかなといったような印象は持っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 三保地区の私のちょっと知り合いに、デマンドタクシーを使った方にちょっと聞いたところ、1つ目が、ドライバーがすごく親切でとてもよかったと喜んでいました。2つ目が、今後、若干お金を払ってでも、将来乗りたいというふうな話を聞いています。これ、町長にもこういう言葉は届いていますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 私のほうには、直接届いておりませんが、多分、企画政策のほうには届いているんだろうというふうに思っております。

いずれにしても試行運転ですので、この数字を基に、皆さんに使いやすいようなことをやっていきたいというふうに思っています。一つとしては、やはり自宅まで雨が降ったときなんかは、どうしても、何というんですか、大型車ですとなかなか入りづらいということもありますので、将来的にはそういった小型車についても、何とかできないかというようなことも考えていかなければいけないというふうに思っていますので、そういったことも含めて、

さらに検討していきたいというふうに思っております。

議 長

遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤

今、町長のほうから小さい車、私もそれを今質問をしようかと思って。ぜひ、これ意外と道が狭いんですよね、清水地区、向こうの地区の。で、玄関が長いんですよ、玄関まで行くまでがね。どうしても、だから小さい車のほうがいいんじゃないかなと思いますので、ぜひその辺よろしくお願いします。

人数的にも0.9と2人ということで、1日平均少なかったんですけど、先ほどの一般質問の中にも入れておきましたけど、今後、当然、高齢化が進み、免許証返納がかなり増えると思いますので、ぜひこれはもう続けていただいて、増車のほうも、ひとつ考えていただきたいと思うんですが、町長はどうでしょう、考えが。

議

長

町長。

町

長

おっしゃるように、これから今、山北町、高齢化、そしてまた免許証返納者とか、様々な中で、決して、特に三保、清水、そういったところでは利用していただける方が減っていくということはあることなく、むしろ増えていくのではないかと。

ただ、どこまで町のほうでできるかというのは、やはり車の数であるとか、人間の運転してくださる方の人数とか、様々な要因がございますので、それらを見極めながら、少しずつでもさらに利用しやすくなるような、そんなようなことを考えていきたいというふうに思っております。

議

長

遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤

じゃあ次に、3番のほうに行きます。

東山北駅前ロータリーも出来上がり、利用客が増えてきているように感じられる。利用者の利便性を考えると増便とともに御殿場線と循環バスの時刻のすり合わせ。先ほどもちょっとそれは必要だということで聞きました。使い勝手がよくなれば、また利用される方も少しは増えてくるんじゃないかと思っておりますので、その辺、町長のお考えはどうでしょう。

議

長

企画政策課長。

企 画 政 策 課 長

東山北駅前ロータリーの関係と御殿場線の関係でございますけれども、循環バスと御殿場線の接続の関係につきましては、当初、循環バスを運行し

たときにも、様々な制約がある中で可能な限り乗換え時間等については考慮したつもりで、現在運行しているところでございます。

ちょっと調べましたところ、南部循環東回りにつきましては、1日7本運行しております、これを利用して東山北駅で下車した場合、御殿場線上りの待ち時間の関係なんですけれども、30分未満が5本、30分を超えるものが2本というような状況になってございます。同じく、南部循環の今度は西回りですけれども、これにつきましては1日6本運行してございまして、これを利用して東山北駅で下車した場合につきましては、御殿場線の上り方面の待ち時間につきましては、全て25分未満というような形で、現在循環バスのほうは運行しているような状況でございます。

以上によりまして、循環バスを利用して東山北駅から、これはあくまで上り方面の場合でございますけれども、御殿場線の待ち時間につきましては、今申しましたように、20分から30分程度の待ち時間が現状ではございます。

ただ、一方で、御殿場線の下りで、東山北駅で下りて、循環バスで例えば帰宅されるようなことを想定いたしますと、そもそも循環バスの運行本数が非常に少ないといったような状況の中で、御殿場線の運行本数につきましては、循環バスが運行している間、16本の電車が東山北駅に到着するといったような状況でございますので、帰りの接続については非常にちょっと接続が悪いような状況でございます。

ですので、こういったところを先ほど町長が申しましたように、富士急さんと再度調整させていただいて、少しでも待ち時間が減らすような工夫ができないかどうか、今後調整していきたいと考えてございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 これ、循環バスでなくて、通常の松田から山北行きとか、今、向原を追加して、東山北のロータリーに入っていないんですけど、そのような構想は、富士急とか警察とかでやって、できるものかどうか。もしできるのであれば、当然それも使えますから、ぜひ考えていただきたい、町長に考えていただきたいんですけど、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 通常のバスをロータリーのところへということですけど、富士急湘南バス

と相談しなければいけないということと、いろいろな制約があるでしょうから、そういったことについては聞いてみたいというようには思っております。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 一つは、地域でそういう要望が多くあるかということがまず一点確認したいということでございます。

それと、あと駅前ロータリーのところなんですけれども、富士急さんのほうで、比較的小型なバスと、あと西丹沢線に使っているロングボディーの車両がございます。一つは、大きい車両はおそらく御殿場線のガードのところと駅前ロータリーのあそこの中だと、通行が非常に難しいということが一つございます。

ですので、今言った地域の方の御要望とあと車両の関係、これがちょっとクリアできないとなかなか運行は、そこに乗り入れることはちょっと難しいのかなといったような考えでございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 できる限り可能であればやっていただきたいと。

これも「町長と語ろうまちづくり」の中で聞いた話なんですけど、買物が終わり、循環バスを待っているときに、歩道に座って待っている方がいると。非常に危険だということでお聞きしました。そのときに、町側からの回答で、富士急と県とで相談すると回答がありましたが、その後何か進展はありましたでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 今のお話は、ドラッグストアのところの話でよろしいですね。

10 番 遠 藤 そうですね。

企画政策課長 はい。座談会でそういった御要望ございましたので、富士急さんのほうに、まずは連絡させていただきました。富士急さんのほうでは、ベンチを置くことは支障はありませんよと。ただ、富士急さんとしては、富士急さんがベンチを設置するといったような事例があまりないので、富士急さんのほうではやっていただくことが困難ですよというような御回答をいただきました。で、その後、じゃあ誰が置くんだという話になりまして、一つは、ドラッグストアさんのお客さんなので、一つはドラッグストアのほうにちょっとお願

いしてみようかなということ、現在、これからドラッグストアのほうにちょっと御相談に伺って、置ける場所があるかどうかという問題もございますので、その辺りも含めて調整をさせていただきたいと思います。

現地を確認いたしますと、バス停のあるところが歩道が若干広がっているんですけども、そこ、ごみのステーションになっているような状況でございますので、ちょっとドラッグストアのほうと置き場所を含めてちょっと調整のほうをさせていただきたいというふうに考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひよろしくをお願いします。

じゃあ、次、4番に行きます。東山北1000計画を策定してから、現時点での推移はどのぐらいかお伺いしてんですけど。

議 長 定住対策課長。

定住対策課長 東山北1000まちづくり基本計画を策定しましたのが、平成23年の3月になります。その現時点ですので、現時点の岸・向原地区の人口なんですけども、23年4月現在で5,885人でした。現在、10月末時点で、岸・向原地区に関しましては5,021人ということで、実数とすると873人の減というふうな形になっています。

しかしながら、こちら、転入転出等いろいろあるんですけども、転入者の数だけ見ますと、平成23年4月からは1,243人の方が新たに転入しているというような数字は残っております。

以上です。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 これは、もう自然減のほうの影響ということですよ。社会増は、今言われた1,243人増えているということで、差し引くと800、マイナスになっちゃっているということですね。

議 長 定住対策課長。

定住対策課長 はい、そのとおりでございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 町長にお伺いしたいんですけど、これに達成に向けての施策が何か考えているかどうか、お聞きしたいんですけど。

議 町 長 町長。

町 長 まあ何ていうんですかね、特に東山北1000計画というのがあるんですけど、当初はスーパーマーケットも何もないような状態の中で、なかなか人口を増やすということは、なかなか難しいというふうに思っておりましたが、現在は、そういったようなことは様々なものが来ていただいて、そして民間の事業者もかなり宅地開発をしていただいたり。

人口だけ見るとおっしゃるように高齢者がお亡くなりになって、そして移住してきてくださる方ですと1,200名ぐらい来ていただいているということですけど、多分戸数にすれば増えているのではないかなというふうに感じております。ですから、今、山北町で一番増えているのが、河内地区と上本村地区でございます。こういったようなところで、やはり、こういうのを起爆剤にして、何とかこの向原と岸地区、そして、原耕地の辺りをそういったような起爆剤にしていきたいと。当然、その中には丸山も入ってくるというふうに思っておりますので。

ぜひとも、単純にただ住んでいただきたい、あるいは何かしていただきたいということじゃなくて、生活もある、あるいは教育もある。様々な、あるいは勤めもある。その様々なものが組み合わせないと、なかなか、移住定住までは進まないということでございますので、それらのものを総合的に勘案しながら、特に今増えている向原・岸地区については、さらに伸ばしていきたいというふうに思っておりますので、そういった意味では、これからもぜひ有効な住宅なり企業なりが来ていただいて、さらに山北町に勢いをつけていただけるようなことを期待しております。

議 町 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 尾先地区の東山北1000計画、第5次総合計画、茱萸ノ木松原改良線の工事は、2022年度となっているが、あまり進んでいないように見えるんですけど、その辺はどうなっているのか。

議 町 長 都市整備課長兼新東名対策室長。

都市整備課長兼新東名対策室長 茱萸ノ木松原先線の件ですけれども、議員さん御存じのように、区間は柑橋果工さんの駐車場の横から山北高校のグラウンドの東側まで、全線で670メートルほどあります。それで、尺里川に架かっている橋は、これは県西土

木さんのほうで架けていただきましたけども、それから下流ですね、下流につきましては、昨年度220メートルほどですけども、舗装までさせていただきますまして、完結してございます。

今現在、昨年8月から尺里川に架かっている橋から上流の部分ですね、延長にして420メートルほどになるんですけども、そちらのほうの河川協議を行っております。

河川協議につきましては、コロナの影響もかなりありまして、なかなか進まない状況でございます。今週も金曜日ですか、今週の金曜日にもまた県西土木のほうに行きまして、協議を続ける予定なんですけども、今現在問題となっておりますのが、議員さんも御存じかと思いますが、尺里川の一番下流ですね、尾先のほうからずっと1.5メートルぐらいの開水路が来ていると思うんですね。その放流先にゲートもあるんですけども、そちらの一番下流の部分が酒匂川の堤防断面内に入っているということで、そちらの取扱いに関しまして、今協議をしているところで、ちょっと難航している状況でございます。今現在、そのような状況でございます。

議 長 定住対策課長。

定住対策課長 尾先地区につきましては、町長の答弁にもございましたとおり、現在、都市整備課長が御説明いただきました茱萸ノ木松原先線、こちらに現状、今行き止まりとなってしまっていますので、こちらに接続をするようなことで、今、土地利用研究会のほうと話を進めておりますので、今、茱萸ノ木松原先線の進捗に合わせて、早急に計画等のほうをつくっていきたいというふうに考えています。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 次に、5番のほうに行きます。

近隣地区の周辺に、近所の方からもちょっと言われているんですけど、町がリードして貸農園か何かを周りにつくったらどうかというふうに言われているんですけども、町長の考えはどうでしょうか。

近隣地区、住宅のほうは今もう計画的に進んでいると思うんですけど、近隣地区のほうは、幼稚園はできる。来年どのような形で、できるという形で報告はあるということで、その周りに市民農園といたらいいのか、貸農園、



町がちょっと進んでちょっと動いてもらえないかなというふうなことを聞いているんですけど。

議 長 町長。

町 長 はい。当然、地権者の方と今、そういったようなことで進めさせていただきますんで、その中で、当然、向原保育園の場所だけでなく、そういったような貸農園等の要望があれば、その中で話をして、可能かどうか検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 これは、また話はちょっと違うんですけど、岸地区の大型スーパー駐車場横に緑地地区があると思うんですけど、そこに布団等の大型の用品が洗えるコインランドリーがあれば便利だなというふうなことを聞いているんですけど、その辺、町と民間とで協力して何かうまい方法というのはありますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 コインランドリーについては、小田百さんの土地利用の変更のときに、そういうような要望もさせていただきました。当初いくつか検討したんですけど、なかなかその事業主体をやっていただける方が1者あったんですけど、そのところがなかなか、まあやってもいいという方と、あるいはその小田百さんあたりの考え方との調整がまだ済んでおりません。そういう中で、実際には、小田百さんとしては別のものをやりたいというような希望もございまして、ここのところは、何回もキャッチボールをしながら、今進めているところでございますので、どちらにしても何かしら増やすことができるわけですから、それについて一番町民の方が希望するもの、あるいはまた将来のそれを運営できるような、そんなようなことをやっていきたいというふうに思っております。

議 長 昼、12時を過ぎましたが、このまま一般質問を継続します。御了承ください。

遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 最後に、神奈川新聞の県の人口世帯で、当町の人口は、9月1日現在で、社会増が8人、自然増が6人減少しているのが、これ、2人増となっております。

す。これ、町の施策の結果と思いますので、コロナ禍の停滞していた社会活動も活発化を期待し、来年度に向けて町長の意気込みを最後にお願いたいと。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、人口については、どうしても高齢者については、これはやむを得ないということで、お亡くなりになる方等、山北町、まだまだ多いということで。こればかりはなかなか政策としてどうこうできることではございませんけど、住んでいただける方、またお子さんを生んでいただける方というのは、やはり山北町としては、非常に大事なことだというふうに思っております。そういう中で、今までやってきたのは、空き家対策、空き家をどういうふうにするかというようなこと。あるいは土地利用について、例えば丸山とかほかのところで、町の公共用地を分譲したり、あるいは住んでいただくというようなことをやってきました。

さらに、これからもう一步進んで、山北町、広大な森林とか様々なものを持っておりますので、そういった中で例えば行政財産じゃなく普通財産の利用、あるいはもう一步踏み込んで、さらに地域が必要とする、そういったような、例えば先ほど言ったゲストハウスであるとか、あるいはシェアハウス、そういったことを含めて幅広くいろいろなタイプを想定しながら、ぜひ山北町に、住むより先にまず来て、泊まっていただいて、関係人口をしっかりと増やしていきたい、そういうふうに考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 終わります。